

科目の目標

学校教育目標	知識・技能		思考・判断・表現		学びに向かう力・人間性等		
	理解力	生活力	分析力	表現力	関心力	受容力	向上力
科目で育成する 資質・能力	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける。		生活に関する課題を具体的に見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身に付ける。		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付ける。		
評価の観点 の趣旨	・単元の学習目標を理解し、必要な知識を習得し、理解できる。 ・基礎的・基本的な技能を習得し、活用することができる。		・生活課題について、自分の生活と関わらせて考えを深め、まとめたり発表することができる。		・単元の学習目標を理解した上で自らの生活に関心を持ち、これからの自身の生き方や社会との関わりについて考えようとしている。		
評価の方法	ノート 定期考査	実習レポート	観察 ノート グループワーク	発表 定期考査	観察 実験レポート ノート	グループワーク 定期考査	発表 ノート 定期考査

年間計画

単元	学習内容	配当時数	特に重視する資質・能力	評価の観点と規準
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計	1 「家庭総合」をなぜ学ぶのかを理解する。 2 さまざまなライフスタイルがあることを知り、自分の将来のライフスタイルを具体的にイメージする。	5	【表現力】 自分の将来について、ライフプランを描いてまとめたり、発表することができる。	【思考・判断・表現】 高校生活の課題、自己の生きかた、将来の家庭生活と職業生活のありかたについて考えを深めながら、生活設計を立案したり、発表することができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (2) 青年期の自立と家族・ 家庭及び社会	1 ライフステージについて理解する。 2 青年期は、自立した生活が営めるように、また、自己実現にむけて生きていくための準備をする時期であることを理解する。 3 「共生社会」と「持続可能な社会」の実現に向けて視野を広げる。	5	【生活力】 自分の一生を生涯発達の見点でとらえ、今の自分の生活課題について考察するとともに、自立を達成するために今、できることは何かを考え具体的に行動に移すことができる。	【知識・技能】 生涯発達の考えかたに立ち、各ライフステージごとの特徴と課題について理解するとともに、自立とは何かについて理解することができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (2) 青年期の自立と家族・ 家庭及び社会	1 「家族」の定義を理解する。 2 家族と世帯について理解し、現代の家族の特徴と社会とのかわりについて理解する。	5	【向上力】 現代の家族の特徴とその変化などについて事例をもとに考察し、今後の在り方について具体的に考えることができる。	【主体的に学習に取り組む態度】 現代の家族の特徴とその変化などについて理解し、これからの家族のありかたや社会とのかわりについて考えることができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (2) 青年期の自立と家族・ 家庭及び社会	1 家族・家庭に関する法律を理解し、制度としての家族について考える。 2 家族・家庭に起こる問題の中には、社会全体で解決をめざさなくてはならない問題があることを知る。	5	【理解力】 家族・家庭に関する法律について理解するとともに、多様な生き方、多様な価値観で成り立つダイバーシティの社会の在り方について考察することができる。	【知識・技能】 固定的な性別役割分業意識の見直しや仕事と生活の調和、男女が協力して築く家族・家庭について意見交換ができ、実際の場面においても対応できる力を身に付けることができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (3) 子供との関わりと 保育・福祉	1 子育ては妊娠からすでに始まっているということを理解する。 2 胎児の成長・発達の過程や母体におこるさまざまな変化を知り、父親になる男性や周囲の人が配慮すべきことを理解し、実行できるようにする。	5	【受容力】 育てられる立場と育てる立場の両方の視点に立って、命の誕生について考察することができる。	【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの成長・発達という観点から、女性は妊娠・出産に備えること、男性は胎児と母親の健康を守る立場になることについて主体的に考察することができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (3) 子供との関わりと 保育・福祉	1 新生児期・乳児期、さらには幼児期の子どもの体と心の成長・発達を知り、発達とはそれらの総合的なものであることを理解する。 2 「愛着」が子どもの成長・発達に不可欠であることを理解する。	5	【生活力】 ことばを発達させることばかけ、感情を発達させる気持ちの交流など、子どもの立場に立って実践することができる。	【知識・技能】 新生児・乳児期さらには幼児期特有の体の成長・発達の特徴を理解し、それに応じた対応をすることができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (3) 子供との関わりと 保育・福祉	1 遊びの意義を理解し、児童文化に関心をもつ。 2 子どもの健康と安全について、基本的な理解を得る。	5	【生活力】 子どもの病気への対応、安全確保についての適切な援助方法について、子どもの行動と関連づけながら具体的に考察することができる。	【知識・技能】 子どもの心身の健康を守るためには、ふだんから子どもをよく観察することが必要であることを理解し、適切に対応することができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (3) 子供との関わりと 保育・福祉	1 子どもの人間形成のために必要な親の役割と責任を学ぶ。 2 子どもの成長・発達にとってふさわしい家庭や社会環境の整備の大切さに気づかせる。 3 子育て支援のニーズとその社会的重要性を理解する。	6	【生活力】 育児不安や児童虐待などの事例をふまえ、それらの原因および解決方法をまとめたり、発表することができる。同時に、地域の子育て支援や子育てを支援する制度について調べたり、発表することができる。	【知識・技能】 親の果たす責任と役割について理解するとともに、近年の子どもを取り巻く環境の変化や子育てをする保護者の課題について理解することができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 (4) 高齢者との関わり と福祉	1 人間の発達の完成期であり、同時に現代社会の課題でもある高齢期への関心を高める。 2 高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための個人的・社会的方策を考える。	4	【受容力】 高齢者を肯定的にとらえ、共感の大切さを理解し、適切にかかわろうとする態度を身に付けることができる。	【主体的に学習に取り組む態度】 高齢者の加齢にともなう心身の変化と特徴に関心を持ち、高齢者の生活実態と課題を理解し、それを支える具体的な方法を考察することができる。

A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 （4） 高齢者との関わり と福祉	1 高齢者の生活課題を把握する。 2 高齢者福祉の考えかたについて理解し、自立を支援するための社会保障、社会福祉制度について、高齢者にとって豊かな生活とは何かという視点から理解する。	6	【生活力】 高齢期の生活課題を共に社会の一員として生きる自己の課題としてとらえ、解決策について具体的に考察することができる。	【知識・技能】 高齢社会の現状と課題、高齢者福祉の基本的な理念と近年の高齢者福祉サービスの概要について理解することができる。
A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉 （5）共生社会と 福祉	1 家族で介護について話し合うことの重要性を知り、高齢者の介助を体験し、実践できるようにする。 2 共生社会の理念について理解し、自分の生活や地域、社会を見て課題を発見し、当事者としてその課題解決に参加できるようにする。	7	【分析力】 共生社会の実現に向けて、自分の生活する地域ではどのようなことができるか、考えを深めたり、発表したりしている。	【思考・判断・表現】 地域活動やボランティアの具体的事例について調査・研究し、まとめたり発表したりすることができる。
B 衣食住の科学と文化 （2） 衣生活の科学と文化	1 被服を手づくりすることの楽しさや意義を考える。 2 被服製作の工程と留意点を理解し、日常生活に役立つ縫製に関する基本的な知識と手法を理解する。 3 1年間の学習のまとめ	8	【生活力】 今、おこなっている作業が、完成品のどの部分の工程なのかを縫製工程と照らし合わせて考えながら作業することができる。	【知識・技能】 実習を通して、被服の製作ができ、まち針の打ちかた、玉止め、玉結び、基礎縫いなど、縫製の基本技術を正しく理解し実践することができる。

備考

【留意事項】 ・毎時間の授業において、学習内容を自分自身にいかにか生かすことができるかを前向きに考え、ノートの感想欄に記述できるよう努力してください。 ・家庭生活と社会とのかかわりを理解するために、授業内で紹介した書籍や新聞等には積極的に目を通してください。
--